

令和6年度

第2回教育課程編成員会
報告書

令和7年3月26日(火)

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

第2回教育課程編成委員会 報告書

日時：令和7年3月26日(火)14:00~16:00

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤先生 スタジオエーワン 小出先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

1、校長挨拶

年々多様化する生徒の様子を見ていると、1人1人の生徒指導が難しくなっている。そんな中、先日の終業式や卒業式には、晴ればれしている生徒の顔つきを見ると、1年間頑張ってきた教職員の指導のおかげだと思った。休退学者は昨年よりも多くなってしまったが、誰一人として「こんな学校へ来るんじゃない」などという人はおらず、最後まで誠心誠意尽くしていることがうかがえた。本日は新入生の説明会を行った。早い段階で集中力が切れてしまっているようで、座り方などの姿勢が次第に崩れていっているようだ。新2年生も日頃の様子では心配な時もあるが、やるときはやる生徒がほとんど。これからの指導が大事。

2、自己評価委員会及び学校関係者委員会の報告

基準1

学生は相手がどう思うかが薄い子が多いと感じる。気づく力がつくときより良い。人を大事にすることが基本である。美容に向かう姿勢も大事。何事も楽しんでやることが大事である。引き続き、礼儀・挨拶・整理整頓を軸に学生育成を行っていく。

あきらめずに根気よく、良い点を見つけてがんばっていききたい。

基準2

オープンキャンパスやガイダンスで十分魅力を発揮できるよう、検討していく。新任教師3名採用した。引き続き、人材確保に力を入れていく。

基準3

ヘアケア授業を導入したが、女性を多く扱う職業のため、効果があったと感じている。

時代に合ったカリキュラムが求められている。より良い学校にしていくため、教育活動に力を入れ、在校生満足度を上げていく。

基準4

就職しない学生が4名。資格受験希望者も減少傾向である。カリキュラム内容をもっと楽しさや、やりがいを感じる内容を検討していききたい。1年次オリエンテーション、2年次就職説明にて、就職部より検定取得の意味合いを話していく。

基準5

他人を気にしない子が多い。辞める理由として、環境もある。真面目にやりたい子が変わってしまう事は問題。環境を創り上げることも必要。お客様が不快になる人材を輩出してはいけない。

等を報告した。

伊藤委員

人それぞれ感じ方の差が激しく、敏感な人への言葉がけも注意している。先生が足りないことは、教育の質にも影響する。サロンでも協力できることはやっていきたい。集団生活ができない生徒もいるため、担任の負担が大きいと思う。奨学金を借りている人が多い。奨学金について気に掛けるサロンもあれば、本人任せのサロンもある。実返済はすぐに始まるため、生活ができないなどで問題になっている。サロンも把握しておく必要がある。実技試験があるから、試験のための時間が増える。実践的な内容が入れられるといい。

小出委員

できる人、できない人の格差が激しいようだ。一つ一つ成功体験の積み重ねをしていくしかない。努力した形が残るので、検定は大事だと思う。国家試験のオールウェーブもカールができたとか、ウェーブができたとか。一つずつ達成していくことが大事。ボランティアも必ず新しい発見があるはず。積極的に参加して行ってほしい。

3、令和6年度重点目標の振り返りと、令和7年度の重点目標

小出委員

接客の基本、相手の顔を見て元気な挨拶、掃除。それができなければ技術も伸びない。立ち仕事であるので体力勝負。健康管理もしっかりやってほしい。運動などして気分転換するのもよい。できないことを後回しにしない、強い心を育ててほしい。

伊藤委員

人として成長するためには、社会人と接する機会が多いほうが良い。また、コンテスターは経験すると間違いなく、技術だけでなく人間力も上がる。練習する時間の確保や悔しい思いをすることも、次の進歩に繋がっていく。外部講師との打ち合わせは、早めに対応できるように協力する。

4、カリキュラムについて

伊藤委員

デジタル化が進んでいる。カット、カラーなどのデモンストレーションは動画を上手に使うといい。

小出委員

コミュニケーションは接客業にとって大事なこと。1年生からしっかり学んでほしい。着付けは、留袖などの技術は減ってきたが、袴の着付けが増えた。着付けができることはほとんど

んPRして行ってほしい。

まとめ

相モデルで行えるような授業が増えるといい。トレーニングクリームなどで、カラー塗布をしたり、WD など巻いてみると、モデルになったときにお客様の気持ちがわかる。コミュニケーションの授業はサービス接客検定が任意になった。より、接客の実践に関わる授業にしていただくとよい。心理学の授業をうまく利用し、カウンセリングの授業を加えるといいのではないか。

5、職業実践専門課程について

引き続き、カット、カラー、ネイル、メイク、コミュニケーションで行う。

美容師に必要な技術なのでいいと思う。コミュニケーションは特に大事。学校内だけでなく、実際のサロン体験をしながら、今の求められている技術、最新の技術など学べる機会があるといい。

6、学生の様子

時間の意識や、挨拶、言葉遣い、美しい環境の目標で指導してきたが、HR 遅刻や片付けができず物をなくす、先生に命令する、気に入らないと無視するなど、生活指導に時間がかかった。資格を取りたい、コンテストめざしたい、社会貢献したいなど意欲のある学生が減ってきている。素直な心と感謝の気持ちを育み、気持ちを上げていきたい。

伊藤委員

諦めたらそれまで。先生が悪い、学校が悪いと努力せずにいれば、お給料に差がついてくる。

小出委員

怒れば離れる。ほめて伸ばす。いかに伸ばしていくか。担任一人は難しい。

7. 業界から

伊藤委員

この頃、美容室が倒産している。コロナ禍でもそこまで落ちることはなかったが、物価高騰が大きな要因。全体的にお金を使うようになってきたが、美容も多くの技術があることでそこにだけ使わなくなってきた。人件費も上げなければいけない。お客様に選ばれる意識を持っていないとやっていけない。

小出委員

美容組合も高齢化している。少数ではあるが中学校などのインターンシップの協力などしながら業界からも盛り上げていく。

校長より 今回もたくさんのご意見を頂戴してありがとうございました。今後に活かしてまいります。

次回予定 令和7年8月4日(火)14:00～